

平成19年度豊かなむらづくり全国表彰事業

近畿農政局長賞

いわさいむら

岩崎村づくり委員会（兵庫県養父市）



岩崎地区全景

（概要）

（１）むらづくりの動機・背景

昭和30年頃までは、地区の世帯数は45世帯を数え、人口も150人を有し農林業を中心に栄えた地区であった。しかし経済成長期に入ると地区外へ移住する住民が増え、過疎化と少子高齢化が深刻になり、地区内で古来より行われていた「八朔祭り」「こと」と呼ばれる伝統行事さえ途絶えることとなった。

また、集落機能の低下は集落の環境にも大きな陰を落とし、地区のシンボルともいえる椎の木の保全にも影響を与えた。

こうした現状を憂いた地区内の有志が、かつての集落の賑わいと「和」を取り戻すため、「何をして自分たちが楽しむ」「背伸びをしないで自分たちのできることをやる」を合意事項としてむらづくりをスタートさせた。

（２）むらづくりの内容

ワークショップを活用した村づくり構想

地区を八つのゾーンにわけて将来の活用方法を検討する土地利用構想をワークショップの手法で行い、多くの住民の意見を集約する工夫をしている。

また、都市住民との交流施設や特産品の加工所を備えた「仮称 円座塾」を自力で建設する計画も進めている。

農林産物の生産、流通面での取組

地区で収穫した農林産物を地元のイベント会場や道の駅で「じげのもん市場」と銘打って販売を行っている。地元だけでなく神戸市など交流のある地域のイベントにも出店し、毎年盛況となっている。

岩崎地区が中山間地域ということもあり鹿による農産物の食害が深刻となっているが、捕獲した鹿の肉を使ったソーセージの特産品開発も進めている。

都市住民等との交流

地区のシンボリック存在の椎の木を中心とした公園やビオトープを整備し、「椎の木森林公園祭り」を開催している。このイベントには交流のある地域の住民を招き、交流の場にもなっている。

また、大学生を対象とした加工工房建設用材の切り出し体験も行っている。

女性の村づくり活動への参画

「椎の木森林公園祭り」の際の食事等の準備や地区内美化運動の中心である花づくり部会「しいのみグループ」は女性が主体となって活動に参画している。



ワークショップ成果品



椎の木森林公園祭りでの綱引き



じげのもん市場



地区のシンボルの椎の木